

様式6 別紙

もかけスペース、あけぼのライブラリー

事業主体 名称：もかけこどもひろば
住所：岡山県瀬戸内市邑久町虫明 4515-1

事業実施場所 岡山県瀬戸内市邑久町虫明 819

～事業を始めるにあたって～

(地域の現状・課題・目標など)

子育て支援センターのない過疎集落で、未就学児とその保護者が気軽に立ち寄れる居場所がない。また、放課後や長期休み期間中の子供たちの居場所が少なく、異年齢や多世代で交流できる場所がない。市立図書館は車で20分かかり、子供やお年寄りには図書利用がしにくい地域である。

そのため、だれでも気軽に来られる交流拠点を設けて、子供も大人も楽しく異年齢や多世代交流ができる場所を設置したい。絵本を読んだりおもちゃで遊んだり、参加者同士で交流したり、宿題をしたり、図書利用をしたり、それぞれのニーズに合う幅広い楽しみ方ができる場所を作りたい。

～事業実施内容～ 世代間交流事業

小中学生の乳幼児ふれあい体験事業、協働実施推進事業

<第1回>

事業名 もかけスペース

日時 長期休み期間中 毎週月曜日～木曜日 14時～17時
毎月第4木曜日 10時～14時

場所 裳掛コミュニティセンター

参加人数

7/22 28名(祖父母世代0名、親世代2名、子供25名、大学生1名)

7/23 25名(祖父母世代0名、親世代2名、子供22名、大学生1名)

7/24 21名(祖父母世代0名、親世代2名、子供18名、大学生1名)

7/28 25名(祖父母世代0名、親世代2名、子供21名、大学生2名)

7/29 23名(祖父母世代1名、親世代3名、子供18名、大学生1名)

7/30 9名(祖父母世代0名、親世代2名、子供6名、大学生1名)

7/31 16名(祖父母世代2名、親世代1名、子供12名、大学生1名)

8/4 18名(祖父母世代1名、親世代1名、子供15名、大学生1名)

8/5 23名(祖父母世代1名、親世代2名、子供15名、大学生5名)

8/6 28名(祖父母世代1名、親世代1名、子供23名、大学生3名)

8/7 24名(祖父母世代0名、親世代1名、子供17名、大学生6名)

- 8/18 22名（祖父母世代0名、親世代2名、子供16名、大学生4名）
8/19 20名（祖父母世代0名、親世代2名、子供15名、大学生3名）
8/20 32名（祖父母世代0名、親世代2名、子供21名、大学生9名）
8/21 25名（祖父母世代0名、親世代2名、子供20名、大学生3名）
8/25 30名（祖父母世代0名、親世代2名、子供21名、大学生7名）
8/26 31名（祖父母世代2名、親世代1名、子供23名、大学生5名）
8/27 25名（祖父母世代0名、親世代3名、子供18名、大学生4名）
8/28 29名（祖父母世代0名、親世代4名、子供21名、大学生4名）
10/30 6名（親世代3名、子供3名、うち親子2組）
11/27 6名（親世代2名、子供2名、うち親子1組、大学生2名）
12/18 10名（親世代2名、子供3名、うち親子2組、大学生2名）
1/29 7名（親世代2名、子供3名、うち親子2組、小学生2名、高校生1名、大学生2名）
2/19 7名（親世代1名、子供2名、うち親子1組、高校生1名、大学生3名）

内 容 絵本読み聞かせ、おもちゃあそび、楽器あそび





活動の成果等

未就学児がのびのびと自宅とは違う環境で遊ぶことができ、親もリラックスして子供の遊びを見守ることができる環境が作れていた。大学生がボランティアとして参加したため遊びのはばが広がり親から離れて遊ぶことができ、親同士の交流の時間がとれた。しかし、地域内で幼稚園や保育園やこども園に所属していない未就学児は昨年度よりさらに減少している状況である。利用される親子が変わらない結果となった。利用者のない日が多かったので、近隣地域に情報発信をし、未就学児を見ている祖父母にも利用してもらえるよう努めたい。

長期休み期間中の居場所づくりは初年度だったが平均して約 25 名の利用者があり、長期休み期間中の子供たちの居場所を作ることができた。地域の中で夏休み中でも安全にのびのびと過ごすことのできる場所として定着させたい。見守りボランティアとして大学生が参加してくれたため、遊びの幅が広がり子供たちが楽しく過ごすことができた。教育版マイクラフトを通じて小学生に中学生が操作方法を教えたり、共同で建造物を作成したり交流が活発であった。

<第2回>

事業名	あけぼのライブラリー
日時	毎週金曜日 15時～17時
場所	裳掛コミュニティセンター
参加人数	

7/4	20名（祖父母世代2名、親世代1名、子供17名）
7/11	23名（祖父母世代2名、親世代1名、子供20名）
7/18	22名（祖父母世代2名、親世代1名、子供19名）
7/25	31名（祖父母世代4名、親世代2名、子供24名、大学生1名）
8/1	23名（祖父母世代2名、親世代1名、子供19名、大学生1名）
8/8	27名（祖父母世代1名、親世代1名、子供23名、大学生2名）
8/22	31名（祖父母世代3名、親世代2名、子供24名、大学生2名）
8/29	33名（祖父母世代1名、親世代2名、子供27名、大学生3名）
9/5	27名（祖父母世代1名、親世代1名、子供20名、大学生5名）
9/12	26名（祖父母世代1名、親世代2名、子供18名、大学生5名）
9/19	24名（祖父母世代2名、親世代2名、子供18名、大学生2名）
9/26	32名（祖父母世代3名、親世代2名、子供22名、大学生5名）
10/3	34名（祖父母世代3名、親世代2名、子供24名、大学生5名）
10/10	29名（祖父母世代2名、親世代2名、子供19名、大学生6名）
10/17	28名（祖父母世代2名、親世代2名、子供22名、大学生2名）
10/31	35名（祖父母世代3名、親世代2名、子供23名、大学生7名）
11/7	24名（祖父母世代3名、親世代2名、子供16名、大学生3名）
11/14	35名（祖父母世代3名、親世代2名、子供24名、大学生6名）
11/21	34名（祖父母世代1名、親世代2名、子供28名、大学生3名）
11/28	37名（祖父母世代3名、親世代2名、子供29名、大学生3名）
12/5	36名（祖父母世代3名、親世代2名、子供26名、大学生5名）
12/12	29名（祖父母世代4名、親世代2名、子供20名、大学生3名）
12/19	33名（祖父母世代3名、親世代2名、子供26名、大学生2名）
12/26	31名（祖父母世代3名、親世代2名、子供22名、大学生4名）
1/9	31名（祖父母世代4名、親世代2名、子供22名、大学生3名）
1/30	36名（祖父母世代4名、親世代2名、子供27名、大学生3名）
2/13	33名（祖父母世代4名、親世代2名、子供22名、大学生5名）
2/20	39名（祖父母世代4名、親世代2名、子供28名、大学生5名）

内 容 宿題、卓球、ピアノ、ボードゲーム、カードゲームなど



活動の成果等

今年度は平均して約 30 名の利用があり、昨年度よりも児童の参加者数が増えた。場所を今年度より裳掛コミュニティセンターへ移動したため学校帰りにそのまま利用する子供が多かった。ハロウィンパーティーなど季節のイベントも開催し、親子連れで参

加される方も多くあった。

地域の中で子供たちがのびのびと安心して放課後を過ごせる場所として保護者、児童、地域の方々への定着がより進んでいる。

見守りスタッフは高齢の方が多く、世代間交流ができる場所にもなっている。

また、参加児童はこども園園児、小学校1年生～6年生、中学生、高校生と幅広く、異年齢交流も活発となっている。

○プラスアルファ事業について

小中学生の乳幼児ふれあい体験事業

<実施した活動の内容>

もかけスペースやあけぼのライブラリーで、小中学生が遊びを通して乳幼児と触れ合える機会を提供した。具体的には、折り紙を教えながら一緒に折ったり、幼児に合わせた鬼ごっこをしたりした。外では滑り台で一緒に遊んだり、幼児を交えたサッカーをしたりした。

<実施頻度（月に何回程度か）>

週に1回程度

<実施して得られた効果>

乳幼児と直接触れ合うことで、小中学生は命の大切さを感じることができた。

未就学児と遊ぶ機会が多くあり、相手に合わせた接し方やコミュニケーションの方法を身に付けるなど、小中学生の社会性をはぐくむことができた。

乳幼児とその保護者が小中学生と関わることで、裳掛小学校に通わせることや裳掛地区での子育てに前向きな気持ちを持つ機会になった。

参加者からは、「普段関わる事のない幼児と一緒に遊ぶことができている」「小中学生と関わることも話すこともないので関わることで小学校の雰囲気を感じることができた。」という声が聞けた。

協働実施推進事業

<協働実施した団体>

裳掛コミュニティ協議会、岡山大学まちづくり研究会、民生委員

<どのような形で協働したか（それぞれの団体の役割等）>

もかけこどもひろばと裳掛コミュニティ協議会、岡山大学まちづくり研究会、民生委員がそれぞれ子供の安全確保や活動のサポート、子供の見守りを行い、安心して交流できる環境づくりに協力した。

<協働することで得られた効果>

地域の方々子供たちの交流が深まり、子供たちの安全がより確実に守られた。また、地域全体で子育て支援の輪が広がるきっかけとなった。

<協働実施をすることで得られた団体のメリット>

見守りの大人が増えることでスタッフの人手不足解消になった。さらに、こどもひろばスタッフも地域の方々と交流を深めることができ、地域のつながりも強まった。

<協働実施をすることで得られた団体のメリット>

見守りの大人が増えることでスタッフの人手不足解消になった。さらに、こどもひろばスタッフも地域の方々と交流を深めることができ、地域のつながりも強まった。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

地域における子供の居場所として、昨年度よりもさらに地域の方々に認知されている。放課後や夏休み中の居場所として活用するご家庭も増え、子供たちも楽しんで参加している。多世代・異年齢の交流ができ、双方にとっていい影響がある関わりができていると感じられる。スタッフは高齢の方が多く見守りも大変だったが、大学生の参加が増えたことにより見守る人数が増え子供たちの安全につながった。

子供と保護者のアンケート結果は友達や大学生と遊べたと満足度 90%以上の高い結果となった。

○今後の課題・展開

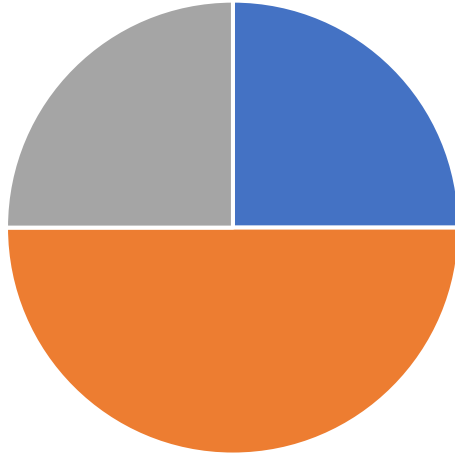
未就学児の減少により、もかけスペースの利用者が少ない現状となった。地域外からの利用者を増やすことも難しく、今後の継続に課題が残る。

あけぼのライブラリーは利用者がかなり増加している。見守りスタッフも増員し、大学生ボランティアの参加もあり子供たちが安全に利用できるようになった。

○まとめ

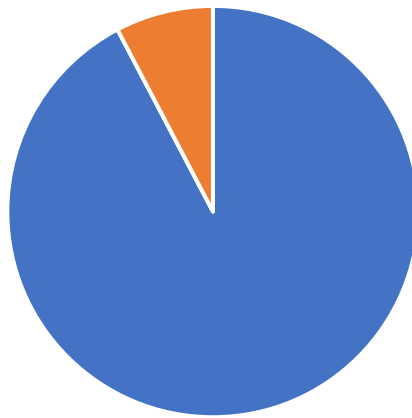
委託料により謝金が払えることによりスタッフを増員し安定して確保できていることで、子供たちの遊び場所としての安全が担保されている。地域の交流拠点として定着しており、保護者・児童の認知度も高い。参加される地域の方々の顔ぶれが増えていないこともあり、地域の方々の居場所としても活用していきたい。

満足度（保護者）



■ 非常に満足 ■ 満足 ■ ふつう ■ やや不満 ■ 不満

満足度（子供）



■ とてもたのしかった ■ まあまあたのしかった
■ あまりたのしくなかった ■ たのしくなかった